



# 取扱説明書

## 灌水ポンプ

**B P 2 5 4 B - 1**

お買い上げいただき、誠にありがとうございました。  
**この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**  
ご使用前に、「安全に作業するために」を必ずお読みください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

# はじめに

このたびは、本製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行なっていただくために、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただいて十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの冊子をご活用ください。

お読みになったあと必ず大切に保管し、本製品を末永く使用できますようにご活用下さい。なお、より良い製品をご提供するために製品を本書の内容が一部異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。

本製品についてお気づきの点がございましたら最寄の取扱店にお問い合わせください。

●取扱説明書は大切に保管してください。

●紛失した場合は最寄の取扱店にてお買い求めください。

●本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

## ■注意事項について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

**！危険**・・・もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるもの。

**！警告**・・・その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。

**！注意**・・・その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。

**注意**・・・その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性があるもの。

## ■機械を他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある**！**(安全注意マーク)

印のついている警告ラベルも一枚ずつ説明してあげて下さい。

親切心が仇にならないように機械と一緒に取扱説明書・安全作業説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を体得してから作業するように指導してください。

とくに禁止事項については念を入れて説明してください。

自分が使用するつもりで！



## ■国際単位について

本取扱説明書には、国際単位を表示しています。下記の換算数値を良く読んでご理解の上ご使用ください。

### 換 算 表

| 量       | 新計量法対応表示                                        | 換 算                                                                 | 従来の表示                                          | 備考 |
|---------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----|
| 面 積     | [m <sup>2</sup> ](平方メートル)                       | 10000[m <sup>2</sup> ]=1[ha]=100[a]<br>=10反歩=3000坪                  | [a](アール)、[ha](ヘクタール)<br>坪、町歩、反歩                | ※① |
| 回 転 速 度 | [rpm](回毎分)<br>[min <sup>-1</sup> ](毎分)          | 1[min <sup>-1</sup> ]=1[rpm]                                        | [rpm]                                          |    |
| 力       | [N](ニュートン)                                      | 9.8[N]=1[kgf]                                                       | [kgf](重量キログラム)                                 |    |
| 力のモーメント | [N・m](ニュートンメートル)                                | 9.8[N・m]=1[kgf・m]                                                   | [kgf・m]                                        |    |
| 圧 力     | [Pa](パスカル)<br>[N/m <sup>2</sup> ](ニュートン毎平方メートル) | 0.98[MPa]=10[kgf/cm <sup>2</sup> ]<br>9.8[Pa]=1[mmH <sub>2</sub> O] | [kgf/cm <sup>2</sup> ]<br>[mmH <sub>2</sub> O] |    |
| 効 率・動 力 | [W](ワット)                                        | 735.5[W]=1[PS]<br>9.8[W]=1[kgf・m/s]                                 | [PS]<br>[kgf・m/s]                              |    |

※注意事項

①土地面積については、[a]、[ha]を使用することがあります。

# 目次

|                                                                                                 |    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| ◎はじめに                                                                                           | 1  |
| 1.  安全に作業するために | 3  |
| 2. 各部のなまえと操作部のはたらき                                                                              | 6  |
| 3. 警告ラベルの取扱い                                                                                    | 7  |
| 4. 始業前の準備                                                                                       | 7  |
| ・ホースの組立                                                                                         | 7  |
| ・始業点検                                                                                           | 8  |
| ・給油                                                                                             | 9  |
| 5. 始動                                                                                           | 10 |
| 6. 運転                                                                                           | 12 |
| 7. 停止                                                                                           | 13 |
| 8. 清掃と整備                                                                                        | 14 |
| 9. 水抜きと格納                                                                                       | 16 |
| 10. ポンプの故障診断と処置                                                                                 | 17 |
| 11. エンジンの故障と処置                                                                                  | 18 |
| 12. 仕様                                                                                          | 21 |
| 11. サービスと保証について                                                                                 | 22 |

# 1. ⚠️安全に作業するために

## (1) はじめに

ご使用前に必ずこの取扱説明書をよく読んで正しい安全作業を行ってください。

「安全に作業していただくために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですがこれ以外にも本文の中で ⚠️危険・⚠️警告・⚠️注意・注意 としてそのつど取り上げています。」

## (2) 作業前にこれだけは守りましょう。

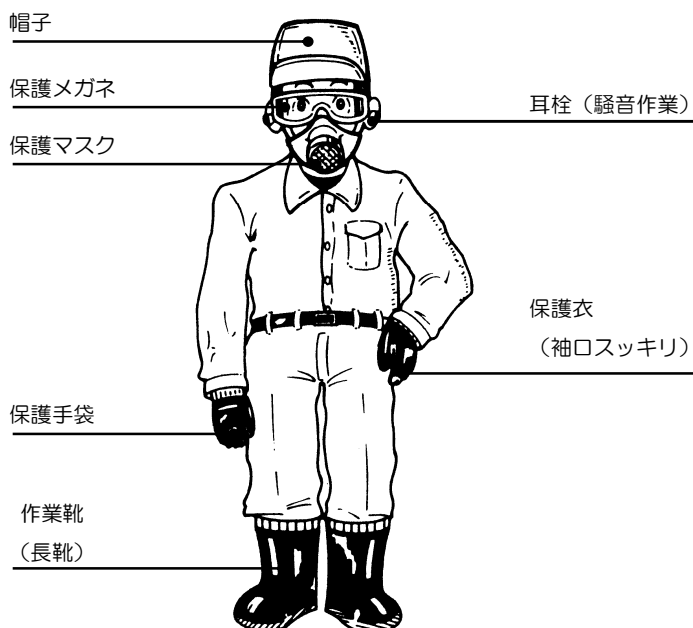
■ こんな人は、作業してはいけません。心身ともに健康な状態で作業してください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 若年者
- 未熟練者
- 作業員以外



■ 服装は、作業に適していますか？

- 作業に適し、体にあったものを着用して下さい



- ・ 保護具はつねに正常な機能を有する様、点検・整備を行い、正しく使用してください。
- ・ 騒音が大きい場合はイヤーマフまたは耳栓を着用してください。
- ・ 作業領域には作業員以外の人を近づけないでください。

### (3) ご使用するときの注意

#### ■使用用途

- 1) 水田、畑作、果樹園等への灌水。
- 2) スプリンクラー散水。
- 3) 一般排水、土木排水。
- 4) 作業機等の洗浄。

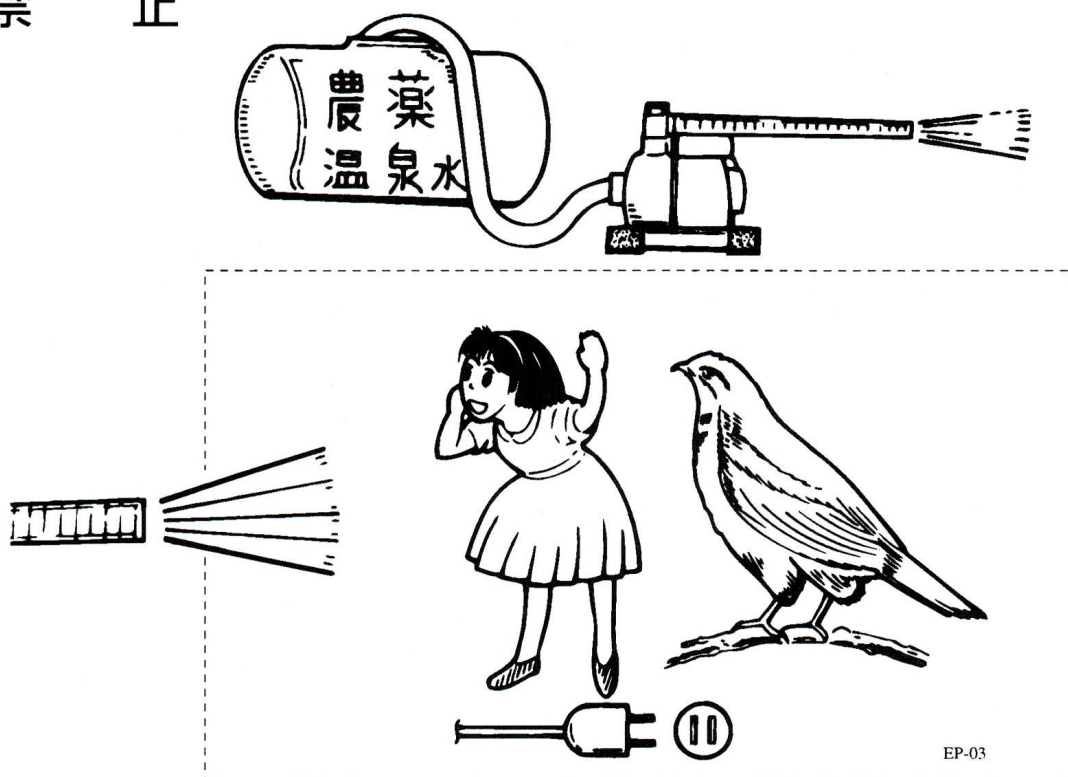
(使用液は清水、地下水、河川の水、用水路の水を使用してください。農薬、化学薬品、温泉水での使用はお止めください。)

**自動車などによる運搬時は機械が転倒しないような処置をしておきます**

#### ■ポンプについて

- 吐出口からは多量の水が吐き出されますので、人や動物に向かって吐出さないでください。
- 運転中は、本機から離れたりせず、またむやみに本機に人を近づけないでください。
- 図のような使用は危険です。行なわないでください。

**禁 止**



#### ■燃料について

燃料は引火しやすいので、火災防止のため、次の事項を守ってください。

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、冷えてから、行って下さい。こぼした時はよく拭き取り乾かしてください。燃料に引火して火災の原因となります。
- 燃料補給タンクから 3m 以上離れて始動してください。

**火気厳禁**



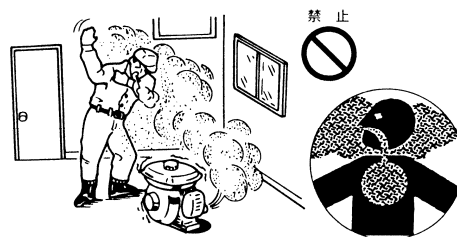
#### ⚠ 警告

**燃料の補給や手入れをする時は火気を近づけないでください。**

## ■エンジンについて

### 換気と可燃物に注意

- 車両にて移動する時は燃料を抜き取ってください。火災の原因となります。
- 換気の悪い場所での使用は避けてください。
- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー、シリンダーフィンなどに手を触れるとヤケドします。
- エンジンの運転中、点火プラグや高圧コードには触らないでください。
- 設置した際に、排気方向は塞がないでください。排気ガスや排気熱により一酸化炭素中毒や火災の原因になります。
- トラックのあおりがマフラー排気口より高い場合にはあおりを倒してください。



### ！危険

- 燃料は可燃物です。運転の場所に火気は近づけないでください。
- 燃料の補給や手入れをする時は、タバコなどの火気を近づけないでください。

### ！警告

- 燃料の補給はエンジンを必ず停止し、冷えてから行ないます。こぼれた燃料はきれいに拭きとっておきます。
- 始動は必ず給油した場所から 3m 以上離れたところでエンジンを始動してください。
- 燃料を基準容量以上補給したり、激しい振動を与えたり本機を傾けたりしないでください。
- エンジンの排気ガスは有害です。閉め切った室内での運転は、一酸化炭素中毒の恐れがありますので、おやめください。また、吸込まないよう注意してください。

### ！注意

- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー・シリンダーフィンなどに手を触れると、やけどをする恐れがあります。
- エンジン運転中のプラグには高電圧が通っています。電気ショックを受けますので運転中は絶対にプラグやプラグコードに手を触れないでください。
- 運転中に燃料がもれている場合は、火災になるので直ちにエンジンを停止して修理してください。
- 機械に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じた時は、直ちに作業を中止して修理してください。
- エンジンはエンジン取扱い説明書を読みそれに従ってください。

### 注意

- エンジンは出荷時にオイルが入っていません。使用前に必ずオイルを入れてください。
- エンジンオイルは使用前に必ず確認してください。オイルが劣化し、エンジンの故障の原因となります。

## （４）ご使用後の注意

- 使用後は火災防止のため、燃料はすべて抜き取って金属缶に入れ保管してください。  
また、燃料タンク内に燃料を入れたままにしていると、エンジンに悪影響を与え、故障の原因となります。
- ポンプ内に残った水は、水抜きをしてください。泥水等で運転した場合は、清水で運転してポンプ内を清掃してから水抜きをしてください。
- 損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗品はすべて当社指定の純正部品をご使用ください。
- 本機を清掃し、保管は湿気の少ない場所に、チリやゴミが付着しないようにしてください。



## 2. 各部の名前とはたらき

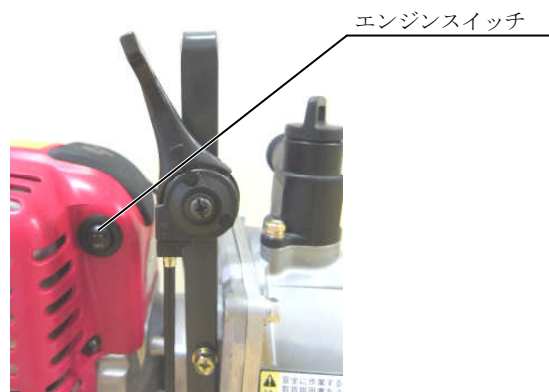
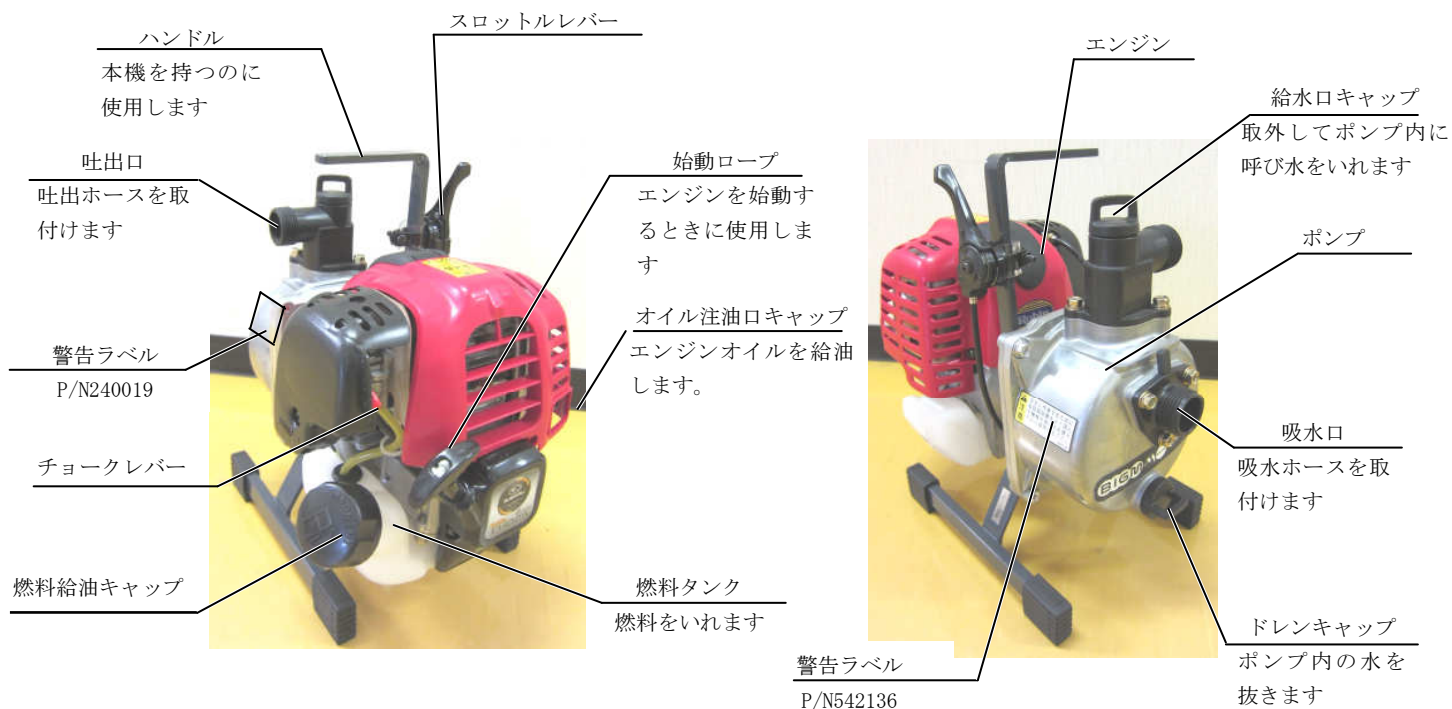
### ■標準付属品のご確認

梱包箱を開けたら、まず付属品が揃っているかどうか、確認してください。万一、付属品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにお買い求めの販売店にお申し出ください。

|             |    |           |
|-------------|----|-----------|
| ホースバンド      | ×3 | P/N240030 |
| ストレーナ       | ×1 | P/N240564 |
| 吸水ホース       | ×1 | P/N240027 |
| ゴムマルパッキン    | ×2 | P/N240859 |
| ホースメネジ中芯    | ×2 | P/N240858 |
| ホースメネジナット   | ×2 | P/N272283 |
| 保証書         | ×1 | P/N117782 |
| 取扱説明書       | ×1 | P/N831983 |
| 取扱説明書（エンジン） | ×1 | —         |

●吐出ホースはオプション（別売）となっています。ホース購入の際は、本製品をお買い求めになった販売店にご用命ください。  
・ホースサイズ…25mm

### ■各部の名前と操作部のはたらき



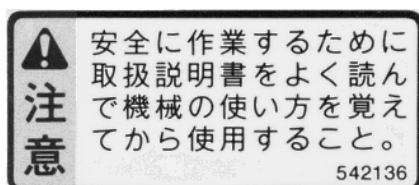
### 3. 警告ラベルの取扱い

#### ⚠ 注意

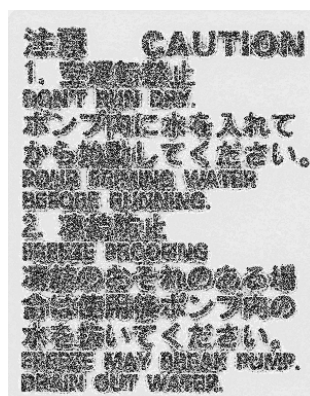
- いつも汚れや泥を取り、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したなら、新しいものと交換してください。
- 警告ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい警告ラベルを、取り外した部品を同じ場所に貼ってください。

- 本機には、次の警告ラベルが貼ってあります。よく読んで理解した上で作業してください。  
下記にその内容を記載してありますのでよく読んでください。

P/N 542136



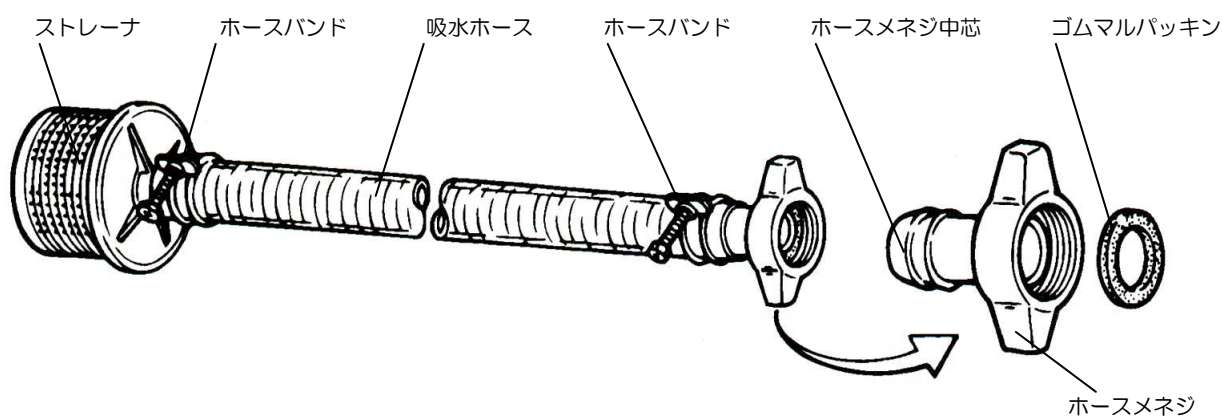
P/N 240019



### 4. 始業前の準備

#### ホースの組立

#### 吸水ホースの組立



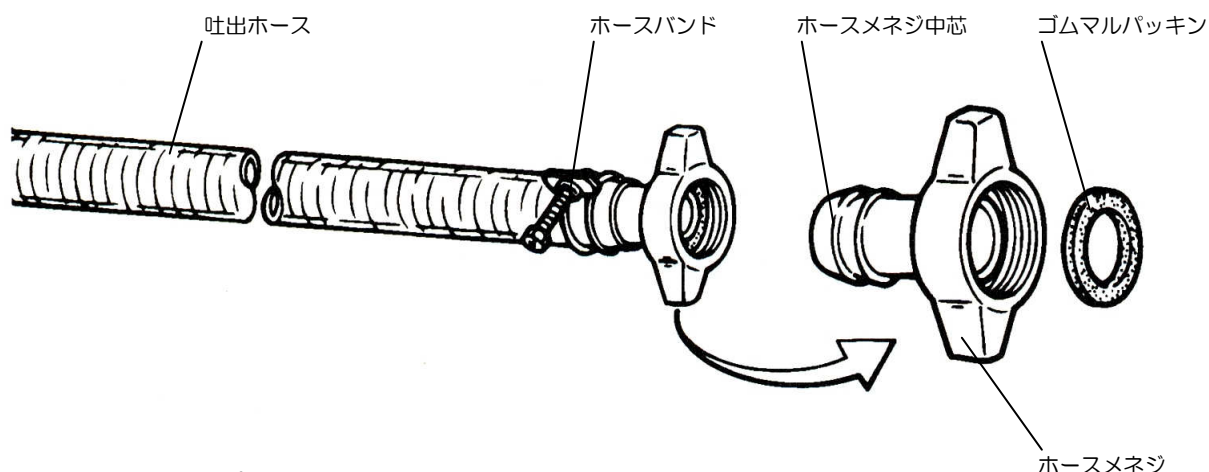
- ホースへのホースメネジ中芯挿入はホースメネジが自由に回せるように5～10mmの間を設け、ホースバンドにて、空気の吸込みや水漏れがないように確実に締付けてください。

#### 注意

- 吸水ホースは負圧になるので、つぶれないホースを使用してください。



## 吐出ホースの組立（オプション）



※吐出ホースはオプション（別売）です。

- ホースへのホースメネジ中芯挿入はホースメネジが自由に回せるように5～10mmの間を設け、ホースバンドにて、空気の吸込みや水漏れがないように確実に締付けてください。

## 始業点検

その日の作業をはじめる前に行なう点検が始業点検です。始業点検は毎行なうことにより、故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検ですので必ず実施してください。

### 点検内容

- 機械各部のネジがゆるんでいないか点検します。ネジがゆるんでいると運転中部品が落下し故障の原因となります。
- エアークリーナの清掃。（P14 参照）
- エンジンにオイルの量や汚れ具合等を点検します。
- ポンプは水源の近くの水平な場所に水際より離して設置します。
- 吸水ホースはできるだけ短く、曲がりや折れのない様にするとうポンプの性能は良くなります。吸水ホースの重量がポンプにかかってポンプが傾いたり移動したりする場合は、吸水ホース、ポンプを固定してください。  
吸水ホースは負圧になります。純正品以外は使用しないでください。
- 吸水ホースは必ずストレーナを付けた状態で使用してください。ストレーナなしで運転すると石、ゴミ等を吸い込み故障の原因になります。
- ストレーナは完全に水源に入れ、浮き上がったり、泥に埋まったりしないようにしてください。

## ○給油

### ⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

ガソリンを補給するときは

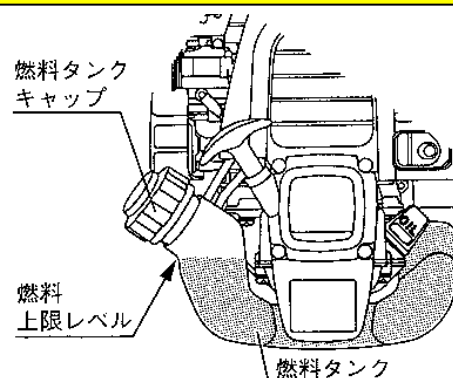
- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれ等で完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を越えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。
- 燃料補給時には燃料コシ網を必ず使用してください。
- 詳しくは同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。

### ■燃料補給

使用ガソリン：自動車用ガソリン

- 燃料給油キャップを少しゆめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取り除きます。  
給油キャップを外し、給油限界位置を越えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締め付けてください。  
また、給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。  
【タンク容量】0.5L



### 注意

- 燃料はこぼさないように注意して入れてください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
- キャップはしっかり締めて、燃料がもれないことを確認してください。
- キャップから燃料もれがある場合、キャップを締め直してください。燃料もれが止まらない場合は、修理してください。
- 補給時にエンジンからの燃料もれがないか確認してください。燃料もれがある場合は、ただちに修理してください。

### ■エンジンオイルの給油

※エンジンオイルは出荷時に入っていません。はじめに使用する際は必ず入れてください。

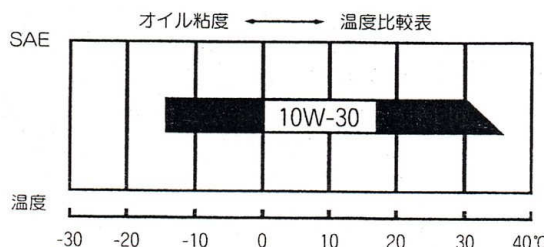
エンジンを水平にし、オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。

- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法はエンジン取扱説明書を参照してください。）

【推奨オイル】4サイクルガソリンエンジンオイル  
SE 級以上 SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

【オイル容量】0.08 L

### 注意

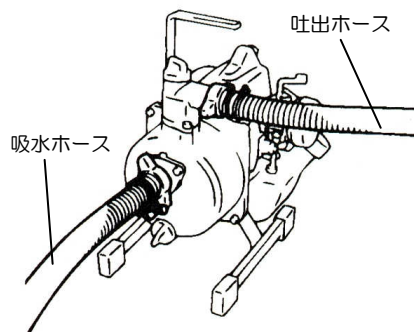


- エンジンを連続運転する場合、10 時間毎にエンジンオイルの点検、補給を行ってください。
- エンジンオイルの補給はオイル容量が小さいため、少量に分けて注入してください。
- オイル給油キャップは確実に締めてください。  
締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

## 5. 始動

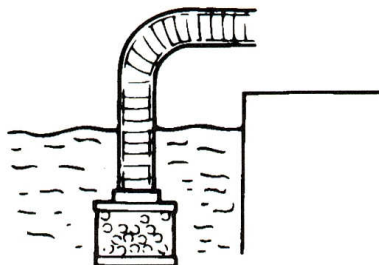
### (1) ポンプ

1. 吸水ホース・吐出ホースを本機に取付けます。

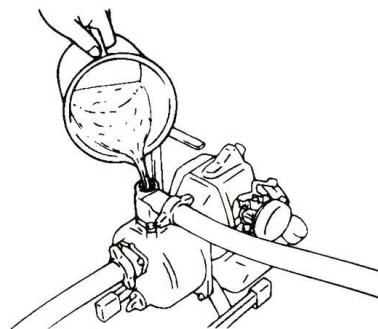


●パッキンを確認してください。

2. 吸水ホースを水源の中に入れます。

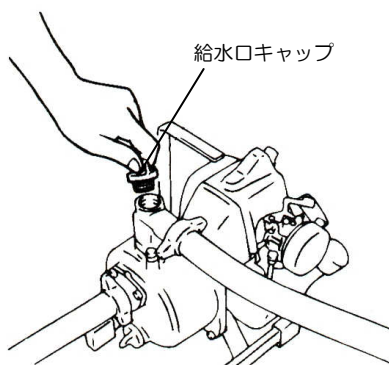


3. 吸水口より、ポンプ内が呼び水でいっぱいになるまで吸水します。



●吸水の際、本機を揺らすと空気抜けが良くなります。

4. 吸水口キャップをしっかりと締めます。



#### 注意

- エンジン始動前に必ずポンプ内に呼び水が入っていることを確認してください。
- 空運転をするとシールが損傷します。

#### 注意

イラストは、参考図ですので、実際の物とは異なる場合があります。

### (2) エンジン

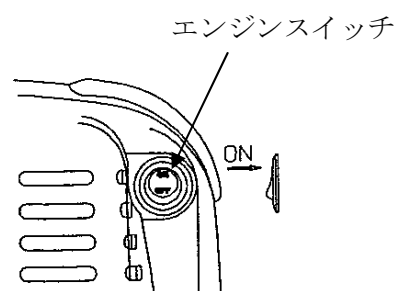
#### 警告

- 始動は必ず、給油した場所から 3m 以上離れたところで行なってください。
- 排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所で運転しないでください。

#### 注意

- 作業機から発する電波雑音により、無線装置が誤作動するおそれがあります。無線装置の近くでは、運転しないでください。

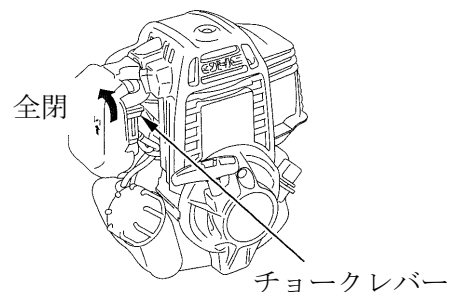
① エンジンスイッチを始動側にする。



②スロットルレバーを中低速位置にします。

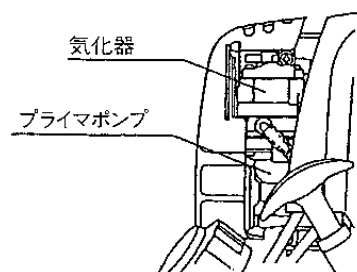


③エンジンが冷えているときは、チョークレバーを全閉にしてください。気温が高いときやエンジンが暖まっているときは、チョークレバーを半開もしくは全開にしてください。



④プライミング操作を行います。

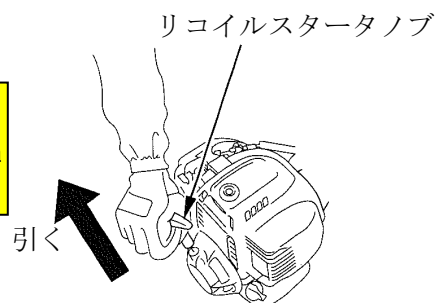
キャブレターの下面に付いているプライミングポンプをゆっくり数回押してプライミングポンプ内に燃料が充満し、リターンホースからタンクに戻るのを確認します。



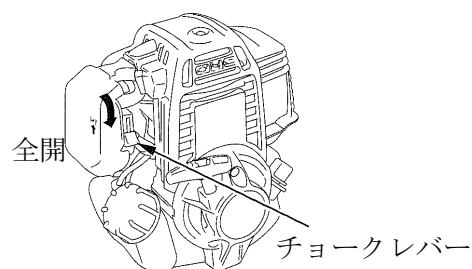
⑤リコイルスタータノブを引いてください。

#### 注意

●リコイルスタータノブを戻したロープが引き込まれず、たるんでしまった場合や、引き始めから引き力が大きく感じるときは、5～10cmほど強めにリコイルスタータノブを引くと正常に戻ります。



⑥リコイル操作を繰り返し、エンジンが始動したら、エンジンの調子を見ながらチョークレバーを徐々に全開にしてください。



⑦エンジンが始動したら、スロットルレバーは低速回転側いっぱい（アイドリング位置）に戻し、1～2 分間暖機運転してください。

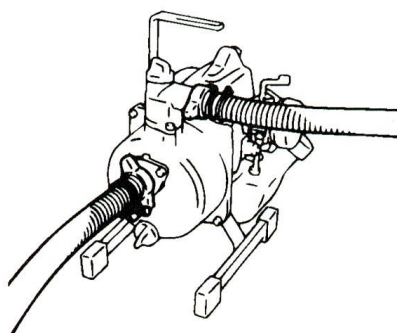
#### ！ 注意

●感電事故防止のため、運転中はプラグキャップや高圧コードにさわらないでください。



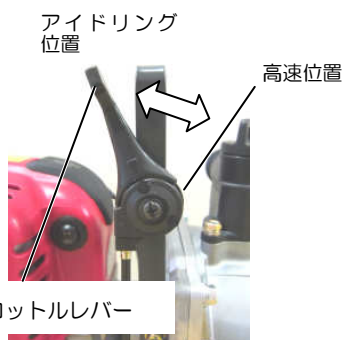
## 6. 運転

1.ポンプに異常音がないか確認します。



MP25B-4

2.スロットルレバーを所定の位置に合わせ運転します。



スロットルレバー

回転を上げる場合は急激に上げず徐々に上げてください。

### 注意

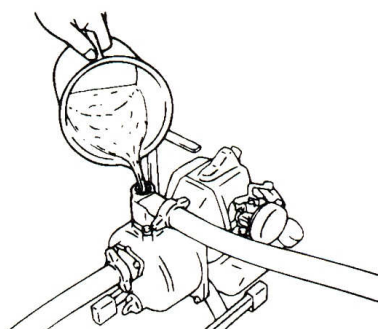
3分程度経過しても、吸水ホースに水が吸い込まれない時は、ただちにエンジンを停止してください。

**P17**「ポンプの故障診断と処置」を参照して適切な処置をして原因を取り除いてください。

### 注意

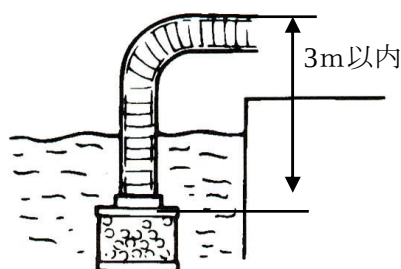
●運転中は下記に注意してください。

1.空運転厳禁  
呼び水は必ず入れてください。



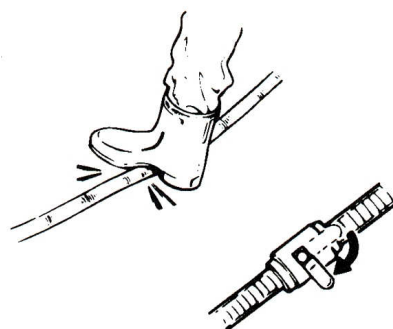
シールが損傷してしまいます。

2.吸水ホースは必ず水源の中へ。



ケーシング内の呼び水の水温が上昇しシールが損傷してしまいます。

3.吐出ホースをつぶしたり、吐出側のコックを急に締めないでください。



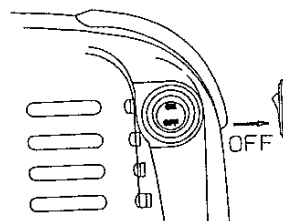
ケーシングが破損する場合があります。

### 注意

●吸水揚程は吸水ホースの長さ以内（3m以内）でご使用ください。

## 7. 停止

- ①スロットルレバーを、低速回転側いっぱい（アイドリング位置）に戻し、1分間位冷却運転してください。冷却運転しないでエンジンを停止するとバックファイヤーを起こし、爆発音を発生することがあります。
- ②エンジンスイッチを「OFF」にしてください。



### ⚠ 注意

- エンジンスイッチの故障で、スイッチを操作してもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを全閉の位置にしてください。エンジンは失速停止します。
- その後すぐお買い上げの販売店にエンジンスイッチの修理を依頼してください。
- 修理が完了するまでは灌水ポンプを運転しないでください。

### 注意

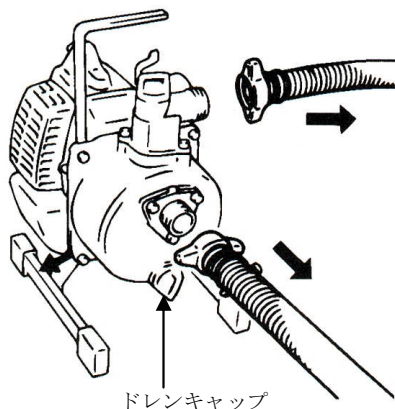
高速回転で運転中に急に停止することは、エンジンに無理がかかり故障の原因になります。緊急時以外は、スロットルレバーをアイドリング位置に戻してからエンジンを停止してください。

### ⚠ 注意

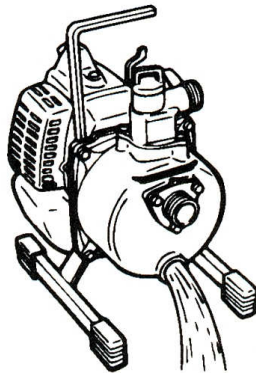
やけど防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラ等の高温部にさわらないでください。

- 作業終了時にはポンプの下記項目を行ないます。

1. 吸水ホース・吐出ホースを本機から取外します。



2. ドレンキャップを取外しポンプ内の水抜きをします。



- 水抜きが終了しましたら、ドレンキャップは締付けておきます。

### 注意

- 停止後再始動する場合は、ケーシング内の呼び水の量を確認し少ない場合は追加してください。
- 泥水等で運転した場合は、清水で運転しポンプ内を清掃してから停止してください。
- 凍結の恐れのある時は、使用後必ずポンプ内の水抜きをしてください。



## 8. 清掃と整備

### ⚠ 注意

清掃・点検および整備の時は必ず本機を停止してください。

※エンジン点検・整備方法の詳細はエンジン取扱説明書を参照してください。

### ■エアクリーナの清掃

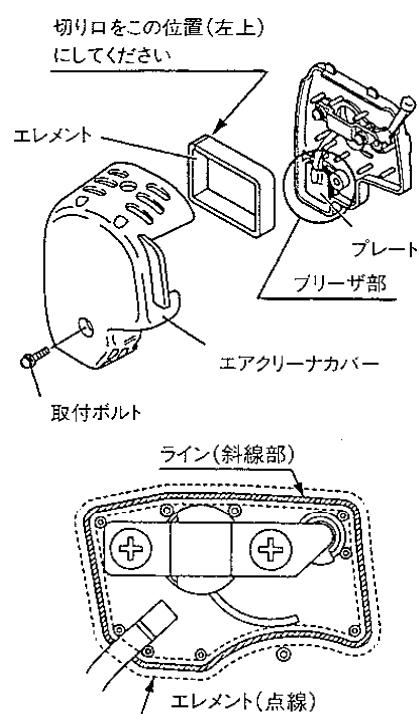
●エアクリーナの元素が汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良をおこします。元素は時々清掃し、汚れを落とし、目づまりを防いでください。

### ⚠ 警告

- 白灯油は引火しやすいので、火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- 清掃は換気のよい場所で行ってください。

【清掃時期】…毎日（10時間運転毎）

- ①チョークレバーを上げます。
- ②エアクリーナカバーを開け、ろ過部（ウレタン）を取外します。  
エアクリーナカバーの開け方は、エアクリーナカバーの取付けボルトを外し、カバー下側を引っ張るようにして、エアクリーナカバーを外します。
- ③ろ過部を白灯油または水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞ってから乾かします。取付けは図のラインに合わせてください。
- ④ろ過部、エアクリーナカバーを取付けボルトで締付けます。  
取り付ける場合は、上側の爪をはめ込んでから下側の爪をはめ込んでください。

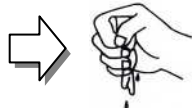


白灯油または水で薄めた中性洗剤で洗う

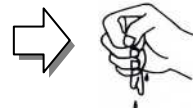
固く絞る

エンジンオイルに浸す

固く絞る



乾かす



### 注意

- エアクリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンの寿命を縮める原因になります。
- オイルをつけすぎないように注意してください。

## ■エンジンオイルの交換

- エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

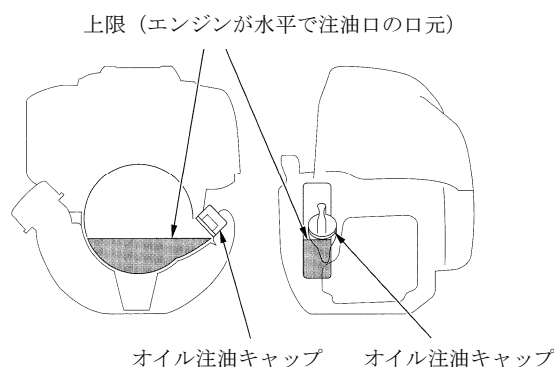
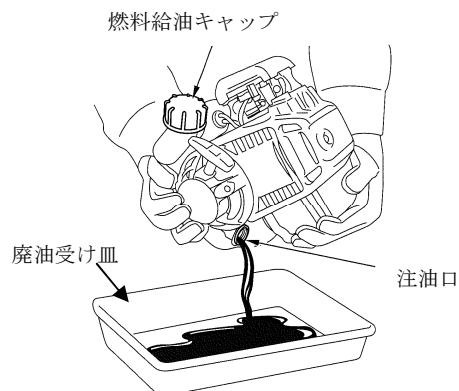
### ⚠ 注意

- エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。

【交換時期】… 初回：1ヶ月または20時間運転後  
以後：6ヶ月または50時間運転毎

【推奨オイル】4サイクルガソリンエンジンオイル  
SE 級以上 SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

- ①燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
- ②廃油受け皿を用意してオイル注油キャップを外して抜きます。
- ③エンジンを水平にし、注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
- ④注入後、オイル注油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



### 注意

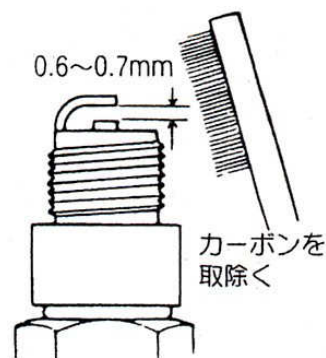
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝等に捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

## ■点火プラグの清掃

- カーボンを取除き間隙を0.6～0.7 mm に調節します。

### ⚠ 注意

- エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。



035-17

## 9. 水抜きと格納

### ■ポンプ

①吸水ホースを清水が入っているタンクにいれ、エンジンを始動します。

②吐出口より吐出しさせ、ポンプや吸水ホース内を洗浄します

※異常があった場合はお求め先、または取扱店にご相談ください。

### ■水抜き

#### 注意

水抜きは必ず行ってください。冬季凍結によりポンプを破損することがあります。

①ポンプ下部のドレンキャップを外し排水口から抜きます。

②ポンプ内の水を排出したら、ドレンキャップを締め込みます。



### ■格納

①燃料がタンク内やキャブレタ内に残ったまま長期保管すると、燃料が変質してエンジンが始動できなくなります。一週間以上使用しない場合は、必ず燃料を抜き取ってください。

②点火プラグを外し、シリンダ内にエンジンオイルを2～3 c c 注入し、2～3 回りコイルスタータをゆっくり引いた後、点火プラグを取り付け、締め付けてください。リコイルスタータを引いて、重くなった位置で止めてください。

作業時に油滴等が飛び散ることがありますので、保護メガネ等で目を保護してください。

③外面は布で清掃してください。

④各部を十分に清掃し、保管はチリやホコリが付着しないように注意して火気のない、高温や多湿にならないところに格納してください。

#### 注意

●損傷個所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品・消耗品はすべて、当社指定の純正部品をご使用ください。

●保管は湿気の少ない場所でチリやゴミが付着しないようにしてください。

## 10. ポンプの故障診断とその処置

●ポンプ、エンジンの調子が不良の場合は次の内容が考えられます。

●☆印についてはお求め先、または当社営業所に調整、修理を依頼してください。

| 状 態                | 原 因           | 処 置           |   |
|--------------------|---------------|---------------|---|
| ポンプが回らない           | エンジンが正常に回らない  | エンジンの故障と処置参照  | ☆ |
|                    | インペラが錆びている    | 分解修理          |   |
|                    | インペラに異物がかんでいる | 分解修理          |   |
| 吸水時間が長い<br>全然吸水しない | 空気を吸っている      | 吸水各部の点検及び増し締め | ☆ |
|                    | 呼び水不足         | ケーシング内に呼び水を追加 | ☆ |
|                    | メカニカルシール不良    | メカニカルシール交換    |   |
|                    | エンジン回転数不足     | 回転数を上げる       | ☆ |
|                    | 吸水高さが高すぎる     | 水源に近い位置にセットする | ☆ |
|                    | 吸水ホースがつぶれている  | 吸水ホース交換       | ☆ |
|                    | ストレーナ、ホースのつまり | 掃除する          | ☆ |
| 吸水量不足<br>吐出圧量不足    | 空気を吸っている      | 吸水各部の点検及び増し締め | ☆ |
|                    | エンジン回転数不足     | 回転数を上げる       | ☆ |
|                    | 吸水高さが高すぎる     | 水源に近い位置にセットする | ☆ |
|                    | インペラが磨耗している   | 交換            |   |
|                    | 吸水ホースが細い      | 太くする          |   |
|                    | 異物のかみこみ       | ストレーナ点検       | ☆ |
|                    |               | インペラ点検        |   |

## 1 1. エンジンの故障と処置

※エンジンの故障と処置についての詳細はエンジン取扱説明書を参照してください。

(1) まったく始動しないとき

| 故障原因                    | 対策                                              |
|-------------------------|-------------------------------------------------|
| マフラーテールパイプがカーボンで詰まっている。 | テールパイプのカーボンを取り除く。                               |
| 不良燃料や水などが混入した燃料を使用している。 | 燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正規の燃料に入れかえる。<br>[P9 給油の項目参照] |
| 点火プラグにゴミが付着している。        | 点火プラグを清掃する。(100 時間毎)<br>[P15 点火プラグの清掃項目参照]      |
| 燃料を吸い過ぎている。             | 点火プラグを外し、よく拭き取り、乾燥させる。                          |

(2) 始動するが回転が上がらなかったり、出力が十分でないとき。

| 故障原因                    | 対策                                   |
|-------------------------|--------------------------------------|
| チョークが全開になっていない。         | チョークを全開にする。                          |
| スロットルレバーが充分に開いていない。     | スロットルレバーを充分に開く。                      |
| エアクリーナのエLEMENTが詰まっている。  | ELEMENTを清掃する。<br>[P14 エアクリーナの清掃項目参照] |
| マフラーテールパイプがカーボンで詰まっている。 | テールパイプのカーボンを取り除く。                    |

(3) 運転中、回転が次第に下がるとき

| 故障原因                   | 対策                                              |
|------------------------|-------------------------------------------------|
| 不良燃料を使用している。           | 燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正規の燃料に入れかえる。<br>[P9 給油の項目参照] |
| エアクリーナのエLEMENTが詰まっている。 | ELEMENTを清掃する。<br>[P14 エアクリーナの清掃項目参照]            |

上記についてお調べのうえで、なおサービスが必要なときはお買い上げの販売店にご相談ください。

MEMO



MEMO

## 1 2. 仕様

|      |             |             |                          |
|------|-------------|-------------|--------------------------|
| 本機   |             |             | BP254B-1                 |
|      | 単体          | 寸法（長×幅×高）mm | 325×230×340              |
|      |             | 乾燥質量 kg     | 5.75                     |
|      | 梱包時         | 寸法（長×幅×高）mm | 345×288×365              |
|      |             | 乾燥質量 kg     | 7.45                     |
|      | 吸水・吐出口径 mm  |             | 25（1 “）                  |
|      | 最大吐出量 L/min |             | 110                      |
|      | 最大全揚程 m     |             | 32                       |
|      | 定格出力 運転時間   |             | * 1.5H                   |
| エンジン | 名称          |             | スバル EH025P               |
|      | 型式          |             | 空冷4ストローク直立単気筒OHVガソリンエンジン |
|      | 使用燃料        |             | 自動車用ガソリン                 |
|      | 使用潤滑油 L     |             | API 分類 SE 級以上            |
|      | 潤滑油容量 L     |             | 0.08                     |
|      | 燃料タンク容量 L   |             | 0.5                      |
|      | 点火方式        |             | 無接点マグネット点火               |
|      | 始動方式        |             | リコイル式                    |
|      | 定格出力        |             | 0.55kW/0.75P S           |

\* 運転状態によっては、運転時間は変化します。

## 12. サービスと保証について

### ■保証について

保証期間、保証内容は保証書に記載されています。保証書を読んで確認してください。

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は大切に保管してください。



#### 警告

機械の改造は危険ですので改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

### ■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、故障と対策を見て適切な処置を取ってください。  
分からない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

○連絡していただく内容

●機種名      ●製造番号      ●故障内容

なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

○本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。

年に一度は、お買い上げの販売店に、点検整備をお願いしてください。この時の整備は有料となります。

### ■補修部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後9年です。但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

#### 機体廃棄時のお願い

本機を廃棄する場合は最寄りの取扱店、

又は当社の営業所にお問い合わせください。

製品に関するお問合せ等は、まず、ご購入の販売店にご相談ください。  
または、下記の全国共通のフリーダイヤルでもお受けいたします。

丸山サポートセンター

フリーダイヤル 0120-898-114

受付時間 9:00～17:00(土、日、祝日を除く)

製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ①製品型式名、製造番号
- ②ご購入年月日
- ③販売店名



株式会社 **丸山製作所**

本社/東京都千代田区内神田3-4-15 TEL 03(3252)2281 (営・代表) 〒101-0047